

使用するケースは

- ①前歯を後退する時、奥歯と共にアンカー（固定源）として使う
- ②前歯の咬み合わせの深い（過蓋咬合）ケースで、上の前歯を持ち上げる時の（抵抗源）として使う
- ③上下の前歯間に空隙（開咬症例）があるケースで、上の奥歯を持ち上げる（圧下）するために使う
- ④奥歯を後方に動かす時のアンカーとして使う
- ⑤奥歯が歯列からずれて咬み合うケース（交叉咬合）に使う
- ⑥永久歯が先天的に欠如しているケースや歯周病で奥歯が固定源にならない時に使う
- ⑦顎変形症など外科的手術を回避するケースに使う
- ⑧矯正治療に協力が得られないケースに使う

メリットとデメリットは何か？

メリットとしては

- ①アンカースクリューの利用は、ほぼ痛みもなく難しいケースが治療できます。
- ②あご骨の外科手術が必要なケースが、アンカースクリューを使うことで手術が避けられます。
- ③矯正治療で難しい、上の奥歯を持ち上げ（圧下）ができるようになりました。
- ④ヘッドギアの使用が避けられます。
- ⑤ゴムの使用など患者さんの協力が少なくすみませす。

デメリットとしては

- ①局所麻酔をしてスクリューを埋め込む処置が必要です。埋め込み直後は、痛みなどの違和感が出るこ

があります。

- ②アンカースクリューを埋め込んだ場所の粘膜に炎症が起きることがあります。
- ③矯正用アンカースクリュー代が、矯正治療費に加算されます。
- ④アンカースクリューが矯正治療中にゆるんで脱落し、植え直すことがあります。
- ⑤脱落するケースは、10本に1本ぐらいです。このようなケースは、口の中の衛生状態が良くない場合やあご骨の固い部分（皮質骨）が薄い場合が多いようです。

術前の説明と患者さんの納得（インフォームドコンセント）

矯正歯科医と事前に十分説明を受け、納得されてからスタートして下さい。

- ①スクリューを打ち込む部分の骨の状態をCTや断層レントゲン写真（パノラマ）を撮影し、骨の厚み、歯根の状態、上顎洞、鼻腔の位置、粘膜の状態などを検査します。
- ②アンカースクリューが脱落した場合には、代替の方法に切り替えることがあります。その場合には、治療期間や目標が変わってきます。
- ③アンカースクリューを埋め込んだ直後は、口の中を清潔に保って下さい。万一炎症を起こした時には、抗生物質などの投与をおこないます。
- ④あご骨が薄くスクリューが脱落した場合には、植え直すことがあります。

← 矯正医会報告 →

私たちの所属する日本臨床矯正歯科医会では、会員の研鑽や最新の情報を研修するために、毎年、全国規模で大会を催しております。

今年は、「温故知新—矯正歯科の未来を開く—」という大会テーマのもと、平成30年2月21日、22日に、岡山市のホテルグランヴィア岡山にて第45回日本臨床矯正歯科医会大会・岡山大会が開催されました。

実は、本会では一般の方々にも正しい矯正歯科治療を知っていただく事を目的に、市民セミナーを開催しております。今回も大会に先駆けて2月18日に「市民セミナー in 倉敷」を開催され「歯ならびと健康—子どもたちの未来のために—」と題した講演が行われました。

矯正歯科治療にご興味があるようでしたら、本会の市民セミナーに一度参加してみたいはいかがでしょうか。



発行 日本臨床矯正歯科医会・神奈川支部 / 編集 広報担当 石川 剛 TEL 044-200-8374 / 大野肅英 上木康文

< 医院ニュース >